

平成30年度 防災安全教育専門委員会 秋期研修 報告書

日 時：平成30年11月15日（木） 13：00～16：00

場 所：静岡県私学会館 5階大会議室

(1) 開会挨拶 防災安全教育専門部会会長 廣瀬尚史（城南静岡高校校長）

一昨年参加した「熊本大震災視察」について、避難所となる各学校の対応について紹介があった。

(2) 防災講話 静岡県中部地域局 危機管理課 主査 沖剛様

静岡県中部地域局 沖様より、地震予知・防災対策など、専門家の立場から様々なアドバイスを交えた講話を頂いた。

1 想定されている地震と被害

- ・静岡県を襲うと言われている地震
- ・被害の想定 震度、津波、延焼火災、液状化、土砂災害等

2 地震の時の対応

- ・屋内、外出中、沿岸部など
- ・救護所、救護病院、災害拠点病院
- ・避難地、避難所
- ・中学生高校生の活躍
- ・自助、共助、公助

3 これからの備え

- ・家具の固定や配置の工夫
- ・自宅から学校までの安全・危険のチェック
- ・非難の仕方や家族との連絡方法の確認
- ・備蓄品や非常持ち出し袋の準備
- ・共助につながる取り組み

様々な講演等で何度も聞いている内容ではあるが、まだまだ浸透していないことが多く、繰り返し意識しなければならないことばかりであった。

(3) HUG＝避難所運営ゲーム

実際に、大震災が起きたとき、各学校には自然と住民が避難するために集まってくる。その時、学校はどんな対応をしなければならないのか。6～8人くらいのグループに分かれ、大きな模造紙とマジック、付箋などを利用して、支持者（＝沖さん）が読み上げる事柄に、各グループで対応していく。避難者が一番集まる体育館の見取り図が配布された。指示された内容は次のようであった。

- ・ 体育館に通路を敷く
- ・ 受付場所の設置
- ・ 支援物資置き場の確保
- ・ 喫煙所の設置
- ・ 立ち入り禁止場所
- ・ 本部設置
- ・ 報道者対応
- ・ テントを張る場所、ペットを置く場所
- ・ 駐車場の設置
- ・ ごみ置き場

様々なケースに対応するにはどうしたらいいのかを考えさせられる体験であった。アドバイスの中に、「後からこうすればよかった、となっても手遅れである」という話があった。事前に綿密な準備、計画をしておかなければいけないことを痛感させられた。